



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30~13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：越野 民男 幹事：浅田 豊久

情報委員長：清水 忠

1975・12月11日

第55号

噫々殉難豊川女子挺身隊

殉難乙女像建立者 辻 豊次氏



昭和20年8月7日、愛知県豊川海軍工廠は、B29の空爆とグラマンの機銃掃射を受け、生地獄の中で2,700余名の犠牲者を出した。その中には、はたちにもならない石川県女子挺身隊員52名もふくまれていた。

広島原爆の翌日であり、終戦の8日前であった。

それから30年たった。戦災を受けなかった金沢の人たちから、戦争の記憶は急速に薄れつゝある。戦争を知らない若い人たちも多い。

しかし、そうであればこそ、戦争の悲劇は、生証人である我々の世代から、繰返し繰返し次代に向って語りつがれねばならない。

その平和への悲願をこめて、今日も殉難乙女像は卯辰山頂にたゞずんでいる。

—金沢北RC例会卓話から— (文責 清水 忠)

挽歌 水芦光子

これやこの少女ら 生きてあれば
今は人の妻 子の母なるを
緑葉の色めくごと

春はなのはなやぐごと
生きてあれば とりどりなるを
われら哭く こゝに哭かねば
いずこに人の嘆く辺ありや

乙女像詩碑より



私の職業奉仕

宗田 市太郎

自動車業界に身を投じて以来、何時の間にか18年余が経って終わりました。石川トヨベツト(株)は来年7月で満20周年を迎えますが発足当時は、20名余の社員で月間2,30台の商でしたが、昭和34,5年以降のモーターリゼーションの進展、国内経済の高度成長政策の波に乗って次第に需要が拡大し、今日では県下の拠点数11、従業員370余名を数えております。

社会に奉仕することは、先づ社員の人造りが第一と考え、社是として誠実、実践、努力、礼節の



四つを一同の執務の指針としていますが、この社是は説明するまでもなく、読んで字の通りで一人一人が実行することにより素質の向上を計り、また来客に対する応接態度、言葉使い、電話の応待等、日常心掛ける事柄についても常に車を使用されている方の側になり事を判断し、正確に処理をする様にと、毎週行っている朝礼に、徹底を期しております。こうした事によってユーザーの皆様と深いつながりを持つことが出来ると同時に相互の信頼感を深めております。

日本経済は生産と消費を両輪としてバランスを保ちながら、成長して来ました。そしてこの

バランスを保つ機能を担って来たのが、物流であり、この物流を支えているのが自動車を主役とする、輸送機関であります。いま日本の四輪自動車の保有台数は2,788万台(8月末調べ)で、3.8人に1人、運転免許は3人に1人が持っている程、身近なものとなっております。これは戸口から戸口への利便性、物品の運搬機能等、物流の中心的存在となっており、重要な国民の足として役立っているのですが、このため必然的に起ったのが、大都市交通の行き詰りであります。渋滞、騒音、事故多発、排気ガス問題等であります。

人と車の調和は、都市生活の絶体的条件となってきつつある今日、金沢市でも各方面から検討されており、総量規制或は通行制限、駐停車禁止の措置が、県警により実施されて居ります。

自動車販売に携る自分としては、又前職の関係もあり、交通安全協会、街頭推進隊、或は安全管理者協議会等に所属して、出来る限りの協力をすることが、社会に奉仕する重大な使命と心得て、精進を重ねております。

新入会員紹介

(新たに仲間となった人たちです。おめでとう。) 12月4日

職業分類	氏名	事業所・役名	事業所所在地・電話	自宅住所・電話	生年月日	推薦者	委員会
農業	出島敬識		金沢市小坂町東6 TEL 52-5539	左に同じ	1923年 10月30日	米沢繁男 中村省三	修練
染色工芸	水野博	水野染色工房 事業主	金沢市小坂町己29の6 TEL 52-2762	金沢市兼六元町9の17 TEL 63-2992	1918年 4月7日	山岸与作 大場勝雄	企画

私のロータリー手帖から (7) 再び、お医者さんとロータリー

柴田 三郎

松山RCの梶浦暉一さんの書信から

梶浦さんは、松山市の梶浦外科病院の院長さんである。私が梶浦さんを知ったのは、高知県中芸RCの畏友坂本惣平さんのご紹介に始まる。そして“お、ロータリアン”を157部も括めて下さった篤志の人である。梶浦さんは、ご多忙な身を今年度分区代理を務めておられるが、やがてはガバナ―も押しつけられるであろう信望高きお人である。この梶浦さんから最近、感銘深き書信をいただいたので次にご紹介する。

「……………貴クラブ会報(第49号)をご恵送頂きありがとうございます。医師ロータリアンをおほめ頂き恐縮に存じます。また高田全先生のお話しも大変参考になりました。私が医業に這入りましてから36年になります。その間、私のモットーは“我が道を行く”であります。その基礎になりましたものは、

- ① **医業で金儲けしようと思っ**てはならない。中学3年(大阪府立天王寺中学)の時、先輩医師から“これから医師を志す者は、将来これで金儲けしようと思っ
- ② **自信を持つこと**。昭和16年の暮、召集令状を受け、阪大医学部小沢外科教室で壮行会を開いて頂いた時、教授の小沢凱夫先生(大阪北RC会員)より“私の教室で2年間外科医として修業したのだから、外科医として、自信を持って征くように”との激励の言葉を頂きました。この時、私は教室より派遣されて、陸軍関係の病院に勤めておりましたので、即日帰郷になり、終戦まで、同病院で働きました。以来“自信を持つこと”が、私の人生に限りなき光を与えてくれました。
- ③ **奉仕**。昭和28年5月、松山RCに入会、ロータリーの目的は、企業の根底に奉仕を置くべしとする理想を推進し、奉仕活動を実践する人間、つまり、個人奉仕家を作るものであることを知り、今までの、世の為、人の為に働きたいと願っていた自分の漠然としていた考えが、誤りないものだと自覚するに至りましたが、ロータリーに這入り、それが少しづつ形をなして来る器のように、思えて来、今では他人にどう思われようと、私の作る器は、世の名人、達人の造った名器のように一生かかってもならないでしょうが、自分なりに使い勝手のよい手触りの温いものであれば、それでよいと思っております。……以上、今までは心に3本の柱を立てて我が道をたどっておりましたが、今回は、先生より
- ④ **医職たりて礼節を識る**。との名言を頂き、4本の柱が出来たことを、大変ありがたく思っております、今後、この4本の柱を心の支えとして、奉仕の道を歩みたいと思っております。……………」

延岡RCの吉村武文さんの書信から

吉村さんは、延岡市の共立病院の院長さんである。過般、金一封と共に“お、ロータリアン”1冊のお申込みがあり、残額はニコニコBOXへとあった。私は感激した。早速、お礼の意をこめ、当クラブのバナーをそえて送本申し上げた。ところが折返えし、延岡クラブの由緒あるバナーと、当クラブの快拳をたたえ、その上、柴田三郎の名まで登場の、友情あふれるおたよりが届いた。私は、ロータリーならこそその喜びいっぱいである。

ご文面によると、地区ロータリー情報研究会のリーダーをつとめられ、その席上でも“お、ロータリアン”を、ロータリー情報教育の最適資料としてご紹介、ご推薦くださった由。しかも、自らの延岡RCの分として40部をご注文くださった。私は、梶浦、吉村の両お医者さんに、ロータリーの善意と友情と思いやりを、また訓えられ、感激ひとしおである。

尚、延岡RCのバナーについての、吉村さんの解説の要旨は次の通りである。

「バナーの図案にある鐘は、明暦2年(1656年)6月、時の延岡城主有馬康純が鑄造、寄進。明治11年以来80余年、移りゆく郷土の姿を見守りながら朝な夕なに時を告げ、その爛々たる鐘の音は私達市民にこよなく親まれています。そして郷土の詩人、若山牧水は“ふるさとに帰り来りてまずきくは、かの城山の時告ぐる鐘”と、詠んだ。今、会員の奉仕活動が、この古い時の鐘のように、風雪にもめげず強く、遅ましく、そして市民に愛され、親しまれるように……………」

